

介護のこれからの アタリマエ



～変わらない想いで、変わりゆく時代を支える～

目次

P3 介護の仕事とは

P4 介護テクノロジー導入がもたらした介護現場の変化

…… 介護老人保健施設 みつぐ苑(熊本市北区)

P6 未来を支える介護現場

～テクノロジーの開発と多様性のチカラ～

…… 江津しょうぶ苑 介護付有料老人ホーム(熊本市東区)

P8 介護テクノロジー × 働きやすさ × 人材育成の現場

…… 特別養護老人ホーム 白寿園(荒尾市)

PI0 教え合いで育む通所・訪問介護の未来 ～ICT活用とチーム支援～

…… 南阿蘇村社会福祉協議会(南阿蘇村)



介護の仕事とは

➤ サービス利用者の方の生活を専門的にサポート。それが、介護の仕事です。

介護職の主な仕事

介護職員は、サービス利用者の方の状態に応じて食事や入浴、排せつなどの介助を行い、生活を専門的にサポートし、状態の改善や悪化の防止につなげます。



食事の介助



家事の援助



排泄の援助



着替えの介助



入浴の介助



レクリエーション



相談

例えば、入所時は寝たきりで胃ろう(※)による栄養摂取をされていた方が、介護職員による意識的な声掛けやスキミング、機能訓練などにより、車いすでの移動や口からの食事ができるようになり、最終的に在宅復帰された方もいます。

※胃に小さな穴を開け、お腹にカテーテル(管)を取り付けることで、口を介さず直接栄養を摂取する栄養補給方法。

➤ 介護分野の現状

高齢者人口の増加により、介護ニーズが高まる一方、生産年齢人口の減少等により、あらゆる分野で人材確保が難しくなっています。介護分野においても、いかに現場の負担を軽減しつつ、介護サービスの質を維持していくかが重要となっています。

この冊子では、介護人材の確保・定着や介護サービスの質の向上に向けて、多様な人材が働きやすい職場づくりや、介護テクノロジーの活用等による職員の負担軽減・介護サービスの質の向上など、県内の施設・事業所等で行われている様々な取組みを紹介しています。



それぞれの取組みを参考にいただき、各施設・事業所等での取組みにつなげていただければ幸いです。



介護老人保健施設
みつぐ苑

01

介護テクノロジー導入がもたらした 介護現場の変化

熊本市北区にある介護老人保健施設『みつぐ苑』では、スタッフ不足や高齢化などの課題を抱えながらも、令和6年(2024年)から熊本県の伴走支援や補助金を活用し、介護テクノロジーの導入を始めました。

介護テクノロジー導入前に顕在化していた現場課題

現場では、紙に記録を書き、後からパソコンに入力する二重作業が求められ、夜勤時には、ご利用者が起きたか分からず常に気を張る状態にあるなど、人手不足の中、職員の頑張りで何とか現場を回している状況でした。

「このままでは、立ち行かなくなる」という危機感が介護テクノロジー導入のきっかけとなりました。

導入した介護テクノロジー



紙での記録をやめ、スマートフォンなどからその場で音声入力できる仕組みを導入。記録用紙やパソコンを取りに行く必要がなくなり、記録にかかる時間が大きく減少しました。また、見守りセンサー導入により、パソコン上でご利用者の状態を一目で把握することが可能に。すぐに居室に駆けつけることができるため、夜勤時の職員の安心感につながっています。さらに、インカムの活用により、職員間の情報共有がスムーズになり、現場の判断や連携が迅速になりました。

シニア職員の変化

最初は、介護テクノロジーの導入に不安を抱えていたシニア職員も、少しずつ操作に慣れてきました。実際にやってみると「思ったより簡単」「便利」という声も聞かれるようになり、若手職員と教え合う場面も増えました。世代を超えて支えあう関係が、自然と育まれました。



利用者とのコミュニケーションの増加



「(介護記録ソフトや音声入力などで)記録を作成する時間が減って、ご利用者と話す時間が増えた。」「見守りセンサーのおかげで、夜勤が安心。」という声も。以前よりコミュニケーションを密にとることで、ご利用者から「ありがとう」という言葉をいただく機会が増え、仕事のやりがいにつながっています。

現場の声

「介護の仕事は、人生の大先輩であるご利用者がたくさんいらっしゃるの、人との関わり方など多く学ばせていただいています。誰かの人生の一部に携わることができる喜びや、ご利用者から感謝されるのがやりがい。」と現場スタッフの声も。



無理なく働き続けられる環境を目指して



津野田理事長は、「DXだけで全て解決しようということではなく、機械が得意なことは(機械に)してもらい、無理なく長く働き続けられる環境を今後も目指していきたい。」と今後の展望を述べました。



介護老人保健施設 みつぐ苑

所在地 〒861-5535 熊本市北区貢町135

TEL 096-323-6123

HP <https://iseikai-m.com/>



動画はこちら



江津しょうぶ苑 介護付有料老人ホーム
(特定施設入居者生活介護事業所)

02

未来を支える介護現場 ～テクノロジーの開発と多様性のチカラ～

熊本市東区にある「江津しょうぶ苑 介護付有料老人ホーム」では、現場の課題を踏まえた見守りシステムの開発と、多様な人材が協力しながら、誰もが安心して過ごせるよう日々取り組んでいます。

限られた人員で、一人ひとりに寄り添うために

以前は、夜勤中にご利用者がベッドから起き上がって転倒してしまうことも多くあり、頻繁に巡回が必要だったため、スタッフに大きな負担がかかっていました。「限られた人員の中で、いかに安全を守りながら質の高いケアを続けられるか」との課題に対して、江津しょうぶ苑では、業務効率と安全性向上を目的に、独自開発した「AI見守りカメラ」を導入。限られた人員の中でも、ご利用者一人ひとりに寄り添ったケアを実現するための取り組みです。

💡 転倒防止システムの独自開発へ



従来の既製品では、わずかな寝返りや体動でも検知し過剰に訪室してしまうケースや、通知まで時間差が生じることなどにより、転倒防止につながらないケースがありました。そこで、熊本県の「UXプロジェクト」を活用し、転倒防止にフォーカスした「AIカメラによる起き上がり検知システム」を開発しました。カメラ映像はモニターで確認することができ、ご利用者が動くとアラーム音で視覚・聴覚的に職員へ通知されます。

転倒件数も大幅に減少



AI見守りカメラ導入により、ご利用者の動きをすぐに把握し訪室の必要性を的確に判断できるため、転倒の予知と予防につながっています。訪問回数、転倒件数ともに大幅に減少しました。

過剰な訪室が減り、職員からは「ご利用者の安眠につながっていると感じる。」「夜勤帯でも、モニターを見て判断するため、心にも余裕ができる。」との声が上がリ、負担軽減やサービスの質の向上に繋がっています。



外国人介護スタッフの受け入れ



もう一つの取り組みが、外国人介護スタッフの積極的な受け入れです。ベトナム出身のリンさんは、介護福祉士の国家資格を取得し、現在は介護の在留資格で働いています。「最初は、言葉や文化の違いに不安もあったが、先輩方が丁寧に教えてくれたので、少しずつ自信を持てるようになった。」とリンさんは話します。

テクノロジーの力と人のつながりでご利用者に安心感を

渡邊苑長は、「AIがベッドの動きを見守ってくれるおかげで、夜間もご利用者に安心して過ごしていただけるようになった。また、スタッフが言葉や文化の違いを超えて互いに支え合い、学び合いながらケアにあたっていて、テクノロジーの力も人のつながりもどちらも大切な介護の力だと感じている。」と述べました。



特定入居者生活介護事業所
江津しょうぶ苑 介護付有料老人ホーム

所在地 〒862-0946 熊本市東区画図町所島1039

TEL 096-370-3939

HP <https://shoubuen.com/ezu/>



動画はこちら



特別養護老人ホーム
白寿園

03

介護テクノロジー×働きやすさ× 人材育成の現場

荒尾市にある特別養護老人ホーム「白寿園」では、介護テクノロジーの活用と、職員が安心して働ける環境づくりで未来を見据えた介護現場の姿を実現するために取り組んでいます。

働きやすさとケアの質の両立に向けて

職員それぞれが介助と記録の業務を担っており、紙媒体では情報の共有が難しく、負担の大きい現場の中で課題となっていました。そこで、働きやすさにご利用者へのケアの質を両立させるため、クラウド型介護ソフトや各種ICT機器の導入を始めました。

💡 リアルタイムで情報共有



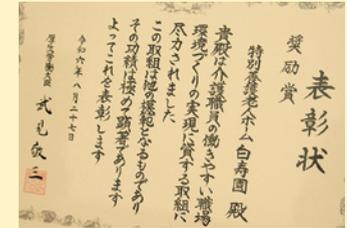
記録はタブレットで行います。業務中でもインカムを使うことで音声入力ができ、時間短縮につながっています。また、全棟、全部署に電子カルテが搭載されているため、どこにいてもご利用者の記録をすぐに確認することができ、他職種との連携も図れるようになりました。



情報共有の効率化によって、介護の本来の業務であるご利用者のケアに時間を活かすことができるため、『働きやすさご利用者へのケアの質の両立』を実現させています。

人を育てる仕組み

経験の有無に関係なく安心して働ける環境づくりが重要となるため、白寿園では、新人研修制度や定期的な施設内研修を通じて、スキルの底上げと職員の定着を図っています。また、認知症初期支援チームの運用にも力を入れ、専門性を高めながら、地域との連携にも取り組んでいます。



特別養護老人ホームでは、重度の介護を要する方が多いため、介護だけでなく医療的な知識が必要になり、医療と介護の連携が非常に重要です。医師や看護師、リハビリスタッフなどの専門職にすぐに相談ができる環境を整備し、チームワークでご利用者に向き合っています。

すぐ相談できる環境

専門職にすぐ相談できる環境を整えたことで、新人職員も「ご利用者の様子がいつもと少し違うなど気になった時、すぐ専門スタッフに相談ができてありがたい。」と感じており、職員の働きやすさにも繋がっています。



「ここに来たら安心」と地域に思われる施設に



鴻江施設長は、「時代の流れとともにICTに慣れるということは非常に重要。ICTを学びながら、より効率の高い介護・ケアを提供できる職員に育てほしい。地域の方々から『ここに来たら安心できる』と思ってもらえるような施設作りを目指したい。」と述べました。



特別養護老人ホーム 白寿園

所在地 〒864-0021
熊本県荒尾市一部字鴻巣2122番地

TEL 0968-68-0176

HP <https://hakujuen.jp/>



動画はこちら

04

社会福祉法人
南阿蘇村社会福祉協議会

教え合いで育む通所・訪問介護の未来 ～ICT活用とチーム支援～

南阿蘇村にある社会福祉法人南阿蘇村社会福祉協議会では、地域に根差した通所介護や訪問介護の現場で、介護テクノロジーを活用した介護の形づくりが進められています。

介護テクノロジー導入前に顕在化していた現場課題

以前は、訪問介護で1日4～5件のご利用者宅を訪問し、その都度メモを取り、帰所後に個人ファイルへ記録をしていました。一人ひとりの記録を丁寧に残す一方で、記録作業には多くの時間と労力がかかっていました。

💡 タブレットとスマホの活用



南阿蘇村社会福祉協議会では、通所介護にはタブレット端末を、訪問介護には職員それぞれのスマートフォンに専用アプリを導入しています。

音声入力やカメラ機能を活用することで、その場で記録ができるようになり、文章だけでなく画像による記録も可能になりました。

現場にもたらされた変化と働きやすさ

スマートフォンを使って介護記録などの情報をスタッフ全員で共有できるシステムになっており、「現場で不安になった時に、すぐに情報を確認することができた。」と働きやすさにつながっています。



ICT機器導入による研修の実施



機器の導入と同時に、月に1度の研修を実施するなど、新しいICT技術や介護技術の習得にも力を入れています。当初は機器操作に不安な声もありましたが、若手スタッフが操作方法を丁寧に他のスタッフに伝え、今では音声入力を日常的に使用しています。スタッフ間のコミュニケーションも以前よりとれるようになりました。

利用者との関わりも増加

機器の導入により、ご利用者一人ひとりの様子に更に見えやすくなりました。業務時間の短縮にもつながり、退勤時間が早くなって「帰ってすぐに夕飯を準備できるようになった。」などと職員のプライベートの充実にも良い影響をもたらしています。



ICTとともに進化する介護のこれから



今村事務局次長は「介護業界のICT機器は年々進化していると感じている。ペーパーレス・電子契約も増えた。マンパワー不足などとも言われているが、介護現場の今は変わってきていることをアピールしていきたい。」と今後の展望を述べました。

社会福祉法人 南阿蘇村社会福祉協議会

所在地 〒869-1412
熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石2705

TEL 0967-67-0294

HP <https://www.asoyamabiko.jp/minamiaso/>



動画はこちら

熊本の介護に関する情報を発信しています！

ウェルカム!

くまもと介護の扉

©2010熊本県くまモン



介護のことが
よくわかる
ポータルサイト!

各施設の
取組を取材した
動画を公開中!



公式
Instagramは
こちら



KJUMAMOTO.KAIGONOTOBIRA

熊本県 健康福祉部 長寿社会局 高齢者支援課

〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号(行政棟 新館4階) ☎ 096-333-2215